

**infonoid****2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）**

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド 上場取引所 東  
コード番号 4436 URL <https://minkabu.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 社長 (氏名) 瓜生 憲  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理管掌 (氏名) 矢口 順子 TEL 03 (6274) 6490  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	4,729	5.1	325	△4.6	△251	-	△289	-	△292	-
2024年3月期中間期	4,499	58.4	340	△35.7	△240	-	△275	-	△231	-

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 △254百万円 (-%) 2024年3月期中間期 △231百万円 (-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△19.55	-
2024年3月期中間期	△15.44	-

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載していません。

2. EBITDA (営業利益+減価償却費+のれん償却額)

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期中間期	14,192	5,541	38.9	368.93
2024年3月期	14,838	6,184	41.6	411.81

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 5,527百万円 2024年3月期 6,170百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	26.00	26.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	51.2	2,300	366.7	1,200	—	1,100	—	700	—	46.72

（注） 1. 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. EBITDA（営業利益+減価償却費+のれん償却額）

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 （社名）株式会社コンテンツモンスター、除外 1社 （社名）—

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（当中間連結会計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	14,983,300株	2024年3月期	14,983,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	23株	2024年3月期	23株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	14,983,010株	2024年3月期中間期	14,977,160株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は、2024年11月14日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用します決算説明会資料は、開催日当日に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書 .....	7
中間連結包括利益計算書 .....	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(当中間連結会計期間における重要な子会社の異動) .....	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(セグメント情報等の注記) .....	11
(企業結合等関係) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の経営成績は、売上高が4,729,050千円(前年同期比5.1%増)、営業損失は251,884千円(前中間連結会計期間は240,747千円の営業損失)、経常損失は289,860千円(前中間連結会計期間は275,231千円の経常損失)、親会社株主に帰属する中間純損失は292,893千円(前中間連結会計期間は231,294千円の親会社株主に帰属する中間純損失)、EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)は325,063千円(前年同期比4.6%減)となりました。

なお、前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前中間連結累計期間との比較分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定後の数値を用いております。なお、詳細は「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりであります。

当中間連結会計期間は、メディア事業において引き続き広告市況の回復が鈍く、成果報酬型広告を中心に売上が軟調に推移しましたが、前連結会計年度より推進してまいりました広告収益の多様化策の収益貢献、ならびに2023年9月1日付で完全子会社化した株式会社フロムワン(2023年3月31日付で完全子会社化したCWS Brains株式会社による吸収合併を2023年11月1日付で行い、同時に商号を株式会社シーソーゲーム(以下「SSG」)に変更)の連結貢献があり、また、ソリューション事業においては、ストック収入の持続的成長に加え、SI・パッケージソリューションを中心としたスポット収入の増加等により、売上は前年同期を上回りました。利益面では前連結会計年度に実施した成長機会獲得に向けた先行投資について、下期の利益貢献に向けた費用増による影響がありました。損失額はほぼ前年並みとなりました。なお、2024年7月～9月までの第2四半期につきましては、当初計画通り株式会社ライブドア(以下「ライブドア」)の買収後では初となる黒字化(31,977千円の営業利益)に転じており、下半期におきましても、引き続きライブドア事業のPMI(Post Merger Integration)の更なる進展による収益の多様化、事業運営の効率化及び合理化によるコスト削減を推し進めるとともに、新規事業の収益貢献も着実に進めてまいります。

なお、当社は、次の成長ステージへとシフトする目的で、ライブドアを2022年12月に、SSGについてはその前身であるCWS Brains 株式会社を2023年3月に、また株式会社フロムワンを2023年9月にそれぞれ連結子会社化し、順次経営統合を実施してまいりました。この度、これら各社が有する合計月間利用者1億人規模のユーザーに向けた付加価値向上による収益拡大と、コスト削減を含む統合効果の最大化、加えて経営資源の有効活用と新たな分野へのチャレンジを図る目的で2024年10月1日付で、ライブドアを存続会社としたSSGの吸収合併を行いました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### (メディア事業)

メディア事業は、ライブドア事業を核に、「ライブドアブログ」を中心としたUGC(User Generated Content)メディア、「ライブドアニュース」を中心としたPGC(Professionally Generated Content)メディアに加え、スポーツ情報メディア「超WORLDサッカー!」、「SOCCERKING」、「BASEBALLKING」、「BASKETBALLKING」、「totoONE」、資産形成情報メディア「MINKABU(みんかぶ)」、韓流メディア「Kstyle」等のパーティカルメディア、「MINKABU Choice」並びに「livedoor Choice」の両アフィリエイトサイトからなる月間平均ユニークユーザー数1億人規模の総合メディア事業を運営しており、これらメディアサイトの運営を通じて得られる広告売上並びに有料サービスから得られる課金売上や、ライブドアモバイル、ライブドアショッピング、ライブドアバンクといった生活サービスにおける手数料収入、コンテンツ等企画・制作や施設運営、イベント運営等のビジネス売上等を収益に計上しております。

当中間連結会計期間におきましては、ネットワーク広告における広告単価の回復は軟調となっておりますが、前連結会計年度から収益の多様化策として推進してまいりましたクリエイターエコノミー関連の新たな施策の収益貢献が開始されたこと、またSSGの連結貢献等が収益に寄与いたしました。

また、新たなスポーツ専門メディアとして、アスリートのネクストキャリアについて、アスリートとともに考え、サポートする「アスミチ」を、バレーボール専門メディアとして「VOLLEYBALLKING」をスタートさせました。さらに当社は「有明アーバンスポーツパーク」(以下「本施設」)のネーミングライツパートナーに選定され、本施設の愛称を「livedoor URBAN SPORTS PARK」といたしました。本施設は2024年10月12日に全面開業し、本施設の全面開業に合わせて、アーバンスポーツ専門メディア「ULTREX(ウルトレックス)」をリリースいたしました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は2,351,163千円(前年同期比7.5%減)となりましたが、当中間連結会計期間の売上高には前中間連結会計期間より適用している持株会社体制でのマネジメントフィー等の支払額453,000千円を含んでおり、これを戻した売上高は2,804,163千円であり、前年同期と同基準での比較では125,024千円の増収(同4.7%増)となります。また同様にセグメント損失は514,581千円(前中間連結会計期間は172,796千円のセグメント損失)となりましたが、マネジメントフィー等考慮前のセグメント損失は61,581千円で

あります(前年同期比25,724千円の悪化)。

#### (ソリューション事業)

ソリューション事業は、主にメディア事業向けに開発した情報コンテンツやアプリケーションを多様な金融機関向けにコンバートし、さらにその差別化ニーズに即したカスタマイズを行う等のB2B及びB2B2Cユース用に展開する情報ソリューションを展開しております。加えて、金融機関向けにソリューション分野における顧客基盤拡大やソリューションノウハウの獲得を目的に、当社グループ独自に開発したアプリケーションやAPI(Application Programming Interface)を活用し、主に金融機関の内部システムの高度化、効率化に資するためのSI・パッケージソリューションを展開しております。また、株式情報専門メディア「Kabutan(株探)」の運営を行っております。情報系ソリューションサービスにつきましては主にクラウド型のASP提供に係る一時売上としての初期導入費及び月額固定やID従量に基づくサブスクリプション収益を、SI・パッケージソリューションではシステムの企画・コンサルティングをはじめ、顧客先の要件に合わせたシステムの受託開発によるスポット収入及びその保守・運用業務によるストック収入を計上しております。また、「Kabutan(株探)」につきましては、有料サービスから得られる課金売上等を収益に計上しております。

当中間連結会計期間におきましては、課金サービスである「Kabutan(株探) Premium」が引き続き堅調に推移したほか、情報系ソリューションにおいて、前連結会計年度のサービスの一部値上げに加えてサービス導入数の増加による月額利用料の拡大が進むとともに、SI・パッケージソリューションにおいても大口既存顧客からの継続的なDXニーズに対応する案件獲得が収益に寄与いたしました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は1,786,411千円(前年同期比0.6%減)になりましたが、メディア事業と同様、前中間連結会計期間から適用しているマネジメントフィー等の支払額275,537千円考慮前の売上高は2,061,948千円であり、前年同期と同基準での比較での増収額は166,226千円(同8.8%増)となっております。同様に、セグメント利益は13,612千円であり、前年同期のセグメント利益119,383千円から105,771千円の悪化(同88.6%減)となりますが、マネジメントフィー等考慮前セグメント利益は前年同期比72,062千円増(同33.2%増)の289,149千円であり、マネジメントフィー等考慮前におきましては、前年同期比増収増益となっております。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は3,303,711千円となり、前連結会計年度末に比べ828,322千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が1,550,779千円減少したこと、売掛金が346,866千円減少した一方で、イベント運営に係る契約金や会場費、制作費等の一部先行支払いによる前渡金が1,020,310千円増加したこと等を要因としたものであります。当社は、これまで構築したグループ事業資産を活用した成長機会獲得フェーズにあるという認識のもと、収益の多様化及び収益規模の拡大に向け先行投資を積極化しております。特にメディア事業においては、非広告収益の拡大を掲げており、その一環として、大型K-POPイベント開催をフックとしたサブスクリプション事業である会員向けサービス「推しパス」を推進しております。前連結会計年度に引き続き、当連結会計年度に置きましても、大規模K-POPイベントの複数開催(2024年10月、2025年1月、2025年3月の計3回)を計画しておりますが、当該イベントにつきましては、前述の契約金等の一部支払いが先行し、チケット販売収入や協賛金収入、放映権販売収入等をイベント開催後に回収する事業モデルとなっております。当中間会計期間末がその前渡金残高のピーク時期であり、一時的に現預金残高が減少しておりますが、今後イベント実施に応じて第3四半期後半から順次回収予定となっております。

固定資産は10,888,496千円となり、前連結会計年度末に比べ181,666千円の増加となりました。これは主に、有形固定資産が38,572千円増加したこと、ソフトウェア開発投資によりソフトウェア及びソフトウェア仮勘定が合計で399,493千円増加した一方で、のれん及び顧客関連資産が減価償却により合わせて257,239千円減少したこと等を要因としたものであります。

これらの結果、資産合計は14,192,208千円となり、前連結会計年度末の14,838,864千円から646,656千円の減少となりました。

#### (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は3,137,750千円となり、前連結会計年度末に比べ403,585千円の増加となりました。これは主に、短期借入金が692,000千円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が200,000千円減少したこと等を要因としたものであります。

固定負債は5,513,142千円となり、前連結会計年度末に比べ406,704千円の減少となりました。これは主に長期借入金が約定弁済により367,500千円減少したことを要因としたものであります。

これらの結果、負債合計は8,650,892千円となり、前連結会計年度末の8,654,011千円から3,118千円の減少となりました。

## (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は5,541,315千円となり、前連結会計年度末の6,184,853千円から643,537千円の減少となりました。これは主に、資本金の減資実行額を資本剰余金へ振替後、資本剰余金を原資とする普通配当支払等を行ったこと等により、資本金及び資本剰余金が合わせて389,377千円減少したこと、利益剰余金が292,892千円減少したこと等を要因としたものであります。

これらの結果、自己資本比率は38.9%(前連結会計年度末は41.6%)となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ1,550,779千円減少し、496,965千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、618,211千円の支出となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失が270,987千円となったこと、イベント運営に係る契約金等の前払い等によりその他流動資産の増加額が1,146,167千円となったこと、その他流動負債の減少額が75,044千円となった一方で、中期的成長のためのソフトウェア投資等に伴う減価償却費を中心とした減価償却費合計が441,505千円となったこと、同様に成長基盤拡大のためのM&Aに伴い、のれんの償却額が135,442千円となったこと、売上債権が346,866千円の減少となったこと等を要因としたものであります。下期に見込んでおります新規事業の収益貢献に向けた準備に関連し、イベント運営に係る契約金や会場費、製作費の一部等の先行支払いによる前渡金が当中間連結会計期間に発生したことにより、一時的に現預金残高が減少しておりますが、第3四半期後半より当該前渡金については回収が開始される予定であります。また既存事業の収益回復に伴いEBITDAは拡大傾向にあるため、今後営業キャッシュ・フローは改善が見込まれます。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、668,312千円の支出となりました。これは主に、有形固定資産購入による支出が102,834千円となったこと、ソフトウェア開発投資を中心とした無形固定資産の取得による支出が650,510千円となった一方で、マイノリティ出資先の株式の売却等により投資有価証券の売却による収入が120,000千円となったことを要因としたものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、264,255千円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が567,500千円となったこと、及び配当金の支払額が388,935千円となった一方で、短期借入金の純増額が692,000千円となったことを要因としたものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現在当社グループは、グループ事業資産を活用したNext Stepに向けた大きな成長機会を得ていると捉えております。2025年3月期におきましては、メディア事業・ソリューション事業ともに既存事業の持続的成長に加え、前期に実施いたしました成長機会獲得のための先行投資案件の収益寄与の本格化等により、連結売上高は2024年3月期比51%増の15,000百万円と、上場来最大の約50億円という大幅増収を、また連結営業利益は1,200百万円、連結経常利益は1,100百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は700百万円、EBITDAは2,300百万円と、2024年3月期に比較し、大幅増益計画としております。前期に実施した収益多様化のための先行投資にかかる新規の大型な収益獲得機会が下半期に集中し、上半期はその準備にかかる固定費が先行することから、引き続き下期偏重の収支計画とし、第2四半期からの黒字化を想定しておりました。メディア事業においては厳しい広告市況が継続しておりますが、PMIの進展や収益多様化策の収益貢献、ソリューション事業においては持続的成長と継続的な大口受注等により、計画通り第2四半期には連結黒字を計上し、当中間連結会計期間におきましては概ね当初計画通りの進捗となりました。

下半期に向けましては、先行投資にかかる新規大型案件の収益獲得を着実達成するとともに、安定的な利益体質を確実にするため、特にライブドアにつきましては「新生ライブドア」を掲げ、モデルチェンジに着手し、AIを最大限に利活用した徹底的な効率化・合理化によるコスト削減の一層の推進と、すでに収益多様化策として効果が具現化しているクリエイターエコノミーについて、クリエイターのセグメント化と「ライブドアブログ」の有料化を含むモデル変更による更なる収益基盤の強化を行い、中期計画へのキャッチアップを図ってまいります。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,047,745	496,965
売掛金	1,596,775	1,249,909
商品	517	1,012
仕掛品	34,226	60,220
貯蔵品	13,818	12,129
その他	448,809	1,491,254
貸倒引当金	△9,858	△7,778
流動資産合計	4,132,034	3,303,711
固定資産		
有形固定資産	824,868	863,440
無形固定資産		
のれん	3,497,481	3,362,039
顧客関連資産	3,138,453	3,016,656
技術資産	45,275	40,163
ソフトウェア	1,389,456	1,446,474
ソフトウェア仮勘定	476,008	818,484
その他	42,491	42,600
無形固定資産合計	8,589,166	8,726,419
投資その他の資産		
投資有価証券	560,518	524,521
差入保証金	410,879	424,974
繰延税金資産	289,647	273,947
その他	36,370	79,813
貸倒引当金	△4,621	△4,621
投資その他の資産合計	1,292,794	1,298,636
固定資産合計	10,706,829	10,888,496
資産合計	14,838,864	14,192,208

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	298,504	303,627
短期借入金	608,000	1,300,000
1年内返済予定の長期借入金	935,000	735,000
未払法人税等	64,331	83,724
その他の引当金	51,134	8,668
その他	777,194	706,729
流動負債合計	2,734,164	3,137,750
固定負債		
長期借入金	5,640,000	5,272,500
資産除去債務	114,409	114,409
その他	165,437	126,233
固定負債合計	5,919,846	5,513,142
負債合計	8,654,011	8,650,892
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,534,975	320,090
資本剰余金	3,806,635	6,632,142
利益剰余金	△1,199,528	△1,492,420
自己株式	△93	△93
株主資本合計	6,141,988	5,459,718
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,202	67,994
その他の包括利益累計額合計	28,202	67,994
非支配株主持分	14,662	13,602
純資産合計	6,184,853	5,541,315
負債純資産合計	14,838,864	14,192,208

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	4,499,956	4,729,050
売上原価	2,507,315	2,650,796
売上総利益	1,992,641	2,078,253
販売費及び一般管理費	2,233,389	2,330,137
営業損失 (△)	△240,747	△251,884
営業外収益		
受取利息	590	156
受取配当金	140	220
貸倒引当金戻入額	2,474	1,389
その他	1,817	4,308
営業外収益合計	5,022	6,075
営業外費用		
支払利息	30,160	38,617
支払保証料	1,100	496
資金調達費用	301	-
投資事業組合運用損	-	4,884
為替差損	1,410	36
その他	6,533	16
営業外費用合計	39,505	44,051
経常損失 (△)	△275,231	△289,860
特別利益		
投資有価証券売却益	1,038	20,000
負ののれん発生益	16,197	-
特別利益合計	17,236	20,000
特別損失		
固定資産除却損	2,960	1,126
特別損失合計	2,960	1,126
税金等調整前中間純損失 (△)	△260,955	△270,987
法人税等	△32,338	22,966
中間純損失 (△)	△228,617	△293,953
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失 (△)	2,676	△1,060
親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△231,294	△292,893

## (中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純損失 (△)	△228,617	△293,953
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,854	39,792
その他の包括利益合計	△2,854	39,792
中間包括利益	△231,471	△254,161
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△234,148	△253,101
非支配株主に係る中間包括利益	2,676	△1,060

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純損失(△)	△260,955	△270,987
減価償却費	437,069	441,505
のれん償却額	144,357	135,442
負ののれん発生益	△16,197	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	136	△2,079
その他の引当金の増減額(△は減少)	△25,078	△42,466
受取利息及び受取配当金	△730	△377
支払利息	30,160	38,617
株式交付費	81	-
固定資産除売却損益(△は益)	2,960	1,126
有価証券売却損益(△は益)	△1,038	△20,000
売上債権の増減額(△は増加)	△45,903	346,866
棚卸資産の増減額(△は増加)	△12,347	△24,799
その他の流動資産の増減額(△は増加)	143,739	△1,146,167
仕入債務の増減額(△は減少)	61,621	5,122
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△80,890	△75,044
差入保証金の増減額(△は増加)	-	420
その他	4,222	△42,676
小計	381,207	△655,497
利息及び配当金の受取額	730	377
利息の支払額	△30,304	△38,107
法人税等の還付額	-	112,807
法人税等の支払額	△145,532	△37,792
営業活動によるキャッシュ・フロー	206,100	△618,211
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△297,359	△102,834
無形固定資産の取得による支出	△303,542	△650,510
投資有価証券の取得による支出	△20,000	△14,760
投資有価証券の売却による収入	25,584	120,000
敷金及び保証金の差入による支出	-	△20,207
敷金及び保証金の回収による収入	95,425	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△458,172	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△958,063	△668,312
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△292,000	692,000
長期借入金の返済による支出	△377,428	△567,500
株式の発行による収入	1,678	180
配当金の支払額	△389,697	△388,935
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,057,446	△264,255
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,809,409	△1,550,779
現金及び現金同等物の期首残高	4,463,954	2,047,745
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,654,544	496,965

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## I 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月30日 取締役会	普通株式	389,380	26	2023年3月31日	2023年6月16日	資本剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

## II 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年5月28日 取締役会	普通株式	389,557	26	2024年3月31日	2024年6月29日	資本剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2024年6月28日開催の定時株主総会の決議に基づき、2024年6月28日付で減資の効力が発生し、資本金の額3,214,975千円、資本準備金の額2,654,975千円を減少させ、全額をその他資本剰余金に振り替えております。

この結果、当中間連結会計期間末において資本金が320,090千円、資本剰余金が6,632,142千円となっております。

なお、株主資本の合計金額に著しい変動はありません。

(当中間連結会計期間における重要な子会社の異動)

当中間連結会計期間において株式会社コンテンツモンスターを新たに設立したため、当中間連結会計期間から連結の範囲に含めております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	メディア事業	ソリューション事業	計		
売上高					
広告	2,540,154	-	2,540,154	-	2,540,154
課金	67,746	-	67,746	-	67,746
メディア・その他	42,368	-	42,368	-	42,368
ストック収入	-	1,233,058	1,233,058	-	1,233,058
初期・一時売上	-	616,629	616,629	-	616,629
顧客との契約から生じる収益	2,650,269	1,849,687	4,499,956	-	4,499,956
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,650,269	1,849,687	4,499,956	-	4,499,956
セグメント間の内部売上高 又は振替高	△108,069	△51,668	△159,737	159,737	-
計	2,542,200	1,798,018	4,340,219	159,737	4,499,956
セグメント利益又は損失(△)	△172,796	119,383	△53,412	△187,335	△240,747

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△187,335千円は、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用であり、全社収益は主に各事業セグメントからのマネジメントフィー、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。なお、当社は当中間連結会計期間より、グループ各社からマネジメントフィーを徴収しており、各事業セグメントのセグメント利益又は損失(△)は、本マネジメントフィーを控除した金額であります。上記メディア事業のセグメント損失172,796千円に含まれるマネジメントフィーは136,938千円であり、本費用控除前のセグメント損失は35,857千円、上記ソリューション事業セグメントのセグメント利益119,383千円に含まれるマネジメントフィーは97,703千円であり、本費用控除前のセグメント利益は217,087千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「メディア事業」セグメントにおいて、当中間連結会計期間に、当社の完全子会社である株式会社ライブドアが株式会社シンクロライフの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことに伴い、のれん290,569千円を計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

「メディア事業」セグメントにおいて、当中間連結会計期間に、当社が株式会社フロムワン(2023年11月1日付でCWS Brains株式会社(2023年11月1日付で株式会社シーソーゲームへ商号変更)と吸収合併)の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、負ののれん発生益16,197千円を計上しております。

なお、当該負ののれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額としております。

また、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益又は損失(△)には含まれておりません。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	メディア事業	ソリューション事業	計		
売上高					
広告	2,125,354	-	2,125,354	-	2,125,354
課金	56,284	-	56,284	-	56,284
メディア・その他	582,946	-	582,946	-	582,946
ストック収入	-	1,333,959	1,333,959	-	1,333,959
初期・一時売上	-	630,504	630,504	-	630,504
顧客との契約から生じる収益	2,764,585	1,964,464	4,729,050	-	4,729,050
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,764,585	1,964,464	4,729,050	-	4,729,050
セグメント間の内部売上高 又は振替高	△413,422	△178,053	△591,475	591,475	-
計	2,351,163	1,786,411	4,137,574	591,475	4,729,050
セグメント利益又は損失(△)	△514,581	13,612	△500,969	249,085	△251,884

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額249,085千円は、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用であり、全社収益は主に各事業セグメントからのマネジメントフィー、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。なお、当社は前中間連結会計期間より、グループ各社からマネジメントフィーを徴収しており、各事業セグメントのセグメント利益又は損失(△)は、本マネジメントフィーを控除した金額であります。上記メディア事業のセグメント損失514,581千円に含まれるマネジメントフィーは453,000千円であり、本費用控除前のセグメント損失は61,581千円、上記ソリューション事業セグメントのセグメント利益13,612千円に含まれるマネジメントフィーは275,537千円であり、本費用控除前のセグメント利益は289,149千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2023年9月1日に行われた株式会社フロムワン(2023年11月1日付でCWS Brains株式会社(2023年11月1日付で株式会社シーソーゲームへ商号変更)と吸収合併)との企業結合について前中間連結会計期間に暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、暫定的に算定された負ののれん発生益の金額23,678千円は、7,480千円減少し16,197千円となっております。

この結果、前中間連結会計期間の中間連結損益計算書は、特別利益が7,480千円減少し、税金等調整前中間純損失(△)が7,480千円増加しております。